

間違わない補聴器の選び方・着け方(8)

博士補聴器 代表 由井 宏知

年をとったら耳が遠く

なつて当たり前前?

日頃、お店でお客様の
ご応対をしていますと、お
客様やご家族様から「年を
取ったから聞こえなくても
もうしょうがない」という
言葉をよく聞きます。ふと
昨年参加したあるシンポジ
ウムで、認知症と難聴の関

連について研究している米
国ジョーンズ・ホプキン
ズ大学フランク・リン博
士のちよつとしたお話を思
い出しましたのでご紹介致
します。
リン博士は難聴と認知
症の関連についての研究の
為、ご自身のおばあ様に協
力を仰いだところ、「あな
たは私が認知症になるつて
いうの?」と言われてし
まったそうです。博士は慌
てて否定するとともに、「高
血圧による心臓発作などを
予防するために、血圧を下
げる薬を飲む」ということ
を例にとつて、難聴に対応

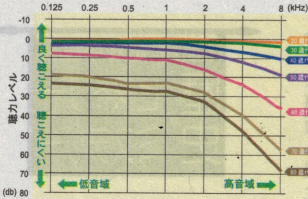
することとそれとは同じこ
とだと説得されたというこ
とでした。
博士がおつしやるには、
1990年頃は、米国で
は最大血圧は「年齢十
140mmHg」以下で
あれば正常であるとい
われていて、加齢によ
る高血圧は当然と考えら
れていたとのことでした。
例えば、70歳なら210
mmHg以下であれば
問題ないという具合で
す。

しかし、現在では、そ
の先にある様々な病気
のリスクが分かるに従
い、徐々に高血圧の基
準値も下がってきて、
高血圧の予防と治療が
重要であることが当然

となつています。
健康診断などで血圧が
高いことがわかると、医師
の診察を受けて、処方され
た血圧を下げる等の薬を飲
んだり、運動したりと生活
習慣を見直すことが行われ
ています。何故ならば、高
血圧は脳梗塞や、動脈硬化
や心筋梗塞、糖尿病、メタ
ボリックシンドローム等の
生活習慣病を引き起こす要
因であると国民のほとんど
が理解しているからです。
高血圧と関連する病気のリ
スクを避けるための予防や
治療が当たり前のように行
われているのです。

この考え方は難聴に
通ずるところが有り、
難聴も年齢を重ねるほどに
進行するのは当然と考えら
れ放置されがちですが、一
方では、難聴が認知機能の
低下や、うつ病・転倒のリ
スク、人間関係の悪化、運
転機能低下、海馬の萎縮等
を引き起こす要因のひとつ
であると考えられています。

難聴は年齢を重ねるほどに
進行するのは当然と考えら
れ放置されがちですが、一
方では、難聴が認知機能の
低下や、うつ病・転倒のリ
スク、人間関係の悪化、運
転機能低下、海馬の萎縮等
を引き起こす要因のひとつ
であると考えられています。
ぜひ、血圧が高ければ治
療をするように、目が見え
にくくなつたら眼鏡を掛け
るように、難聴とその先の
リスクが分かりやすい形で
理解され、気軽に補聴器を
着けられる様になればと思
います。



年齢別平均オージオグラム
立本孝、日本人聴力の加齢変化の研究
Audiology Japan 45,241~250,2002より改変